平成 23（2011）年度
東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻入学志望者案内

・都市工学専攻修士課程入学志望者案内…… 1
・都市工学専攻受験申告票［修士課程］…… 5
・都市工学専攻博士後期課程入学志望者案内…… 7
・都市工学専攻受験申告票［博士後期課程］…… 9
・修士課程・博士後期課程　試験日程……11
・受験者心得……12
・試験場案内……13

連絡先

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室

〒113-8656　東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-5841-6216

Web：http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

平成23年度東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻修士課程（都市環境工学・都市計画専攻分野）
入学志望者案内

・ この案内書は、平成23年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項を補うものである。
・ 都市工学専攻修士課程には、このほかに都市持続再生学コース（社会人向け東大まちづくり大学院）があり、本年は６月26日に入学試験を行う。その入学志望者案内は別途配布している。

都市工学専攻　アドミッションポリシー

教育研究上の目的：
本専攻は、都市工学に関する体系的な知識とその応用技術を身につけ、都市計画、都市デザイン、都市交通計画、都市解析、環境デザイン、都市環境工学、都市水システム、国際都市環境、都市マネジメントなどに関する専門家として活躍できる人材を育成し、地域の気候風土・社会文化の多様性を踏まえ、グローバルな視点から国土及び地域社会の健全な発展に貢献することを教育研究上の目的とする。

求める学生像：
１）本専攻の教育研究上の目的に沿う人材育成に応える人
２）多様な文化を理解尊重し人類社会に対して国際的に貢献することを目指す人

１．定員及び出願資格

大学院修士課程（都市環境工学・都市計画専攻分野）の募集人員は25名である。東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項（以下募集要項）第１項の出願資格を有する者であれば、その専門及び資格取得年次等によらず入学を志望することができる。

２．専攻分野及び指導教員

都市環境工学と都市計画の２つの専攻分野があるので、受験申告票の専攻分野欄のうち志望する専攻分野に〇印をつけること。なお、専攻分野に応じて、試験科目中(B)、(C)の問題の選択範囲が限定されるので注意すること。

本専攻の指導教員及び本専攻における教育・研究に協力する教員とその研究領域（平成22年４月現在）は４頁別表１・別表２のとおりである。

３．入学時期

本専攻では、平成23年４月入学のほか、平成22年10月入学を認めている。平成22年９月末までに入学資格を満たしている（見込みを含む）志望者で、合格の際早期入学を希望する者は、受験申告票の「平成22年10月入学」に〇印をつけること。

４．選抜方法

選抜は入学試験によって行う。また、東京大学大学院学則第18条第２項による別途選抜は行わない。

５．入学試験科目

入学志望者は筆記試験及び口述試験を受験しなければならない。

（イ）筆記試験：

試験科目（配点）	試験時間	摘　　要
(A)外国語 （100点）	２時間 30分	TOEFL-ITPによる英語。工学系研究科として共通して行う。出願時にTOEFL（TOEFL-CBT、TOEFL-PBT、TOEFL-iBT）公式スコアーを提出できる場合、そのスコアーを外国語（英語）試験に替えることもできる。必ず「平成23（2011）年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語（英語）試験に関するお知らせ」を参照すること。
(B)都市工学専門 （500点）	３時間	次の分野から出題される17問のうち５問を選択すること。ただし、専攻分野として都市環境工学を希望する者は①～⑦のうちから３問以上を、都市計画を希望する者は⑧～⑰のうちから３問以上を選択しなければならない。 ＜都市環境工学＞ ① 上水道学・下水道学 ② 水理学 ③ 水環境学 ④ 環境微生物工学 ⑤ 環境化学・反応論 ⑥ 地球環境工学 ⑦ 廃棄物管理 ＜都市計画＞ ⑧ 都市計画 ⑨ 都市デザイン ⑩ 都市住宅学 ⑪ 都市防災 ⑫ 都市情報解析 ⑬ 交通工学・行動分析学 ⑭ 都市交通計画 ⑮ 地域計画 ⑯ 建築計画・建築史 ⑰ 緑地計画・環境デザイン
(C)計画・設計・論文 （200点）	３時間	専攻分野として都市環境工学を希望する者はC-1、C-2のうち１科目を選択する。専攻分野として都市計画を希望する者はC-3、C-4のうち１科目を選択する。 ＜都市環境工学＞ C-1　計画・設計 C-2　論文 ＜都市計画＞ C-3　計画・設計 C-4　論文

注　配点は上記すべての試験を受けることが課せられた受験者の場合の配点である。

試験問題は日本語で出題され、日本語または英語で解答するものとする。

英語の得点は、「TOEFLの素点(TOEFL-ITPもしくはTOEFL-PBTの点数、またはTOEFL-CBT、TOEFL-iBTの点数をTOEFL-PBTに換算した点数)－450」とし、得点の上限は100点、下限は０点とする。

（ロ）口述試験：志望する専攻分野について行う。

６．過去の入試問題の公開

過去の入学試験問題は公開されている。入手方法については本専攻事務室に問い合わせること。

７．説明会

都市環境工学分野説明会を５月29日（土）13時30分より工学部14号館802号室（都市工学専攻会議室）にて、都市計画分野説明会を６月16日（水）18時30分より工学部14号館２階144講義室にて開催する。

８．その他

入学志望者は、この入学志望者案内の12頁に掲載されている「入学試験受験者心得」を熟読すること。

９．連絡先等

連絡先：　東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室
〒113-8656　東京都文京区本郷７－３－１　　電話：03－5841－6216

都市工学専攻Webページ ☞ http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

別表１：都市工学専攻の指導教員とその研究領域（平成22年４月現在）

専攻分野	担当教員	研究領域
都市環境工学	AN, Kyoung Jin 特任講師	高度排水処理、余剰汚泥最小化技術、膜技術、環境教育
	小熊久美子　講師	水と健康、浄水技術、都市水環境管理
	片山　浩之　准教授	水質衛生学、上水道、環境微生物動態
	栗栖　　聖　講師[1]	社会・経済的環境評価、環境低負荷型地域管理、生物学的環境浄化
	栗栖　　太　准教授[2]	環境微生物工学、地下水・土壌浄化、生物学的下廃水処理
	滝沢　　智　教授	都市水システム、浄水技術、途上国の水環境管理
	中島　典之　准教授[3]	生態毒性評価、環境水質化学、底質汚染管理
	花木　啓祐　教授	地球環境工学、都市環境保全、都市物質フロー解析
	福士　謙介　准教授[4]	有害物質管理、リスク管理、広域水環境管理
	古米　弘明　教授[2]	水環境保全制御、都市雨水管理、下水道
	山本　和夫　教授[3]	廃棄物管理、環境質リスク評価、高度処理技術
都市計画	浅見　泰司　教授[5]	居住システム、都市住宅学、空間情報解析
	石川　幹子　教授	環境デザイン、都市緑地計画、景観計画・デザイン
	大方潤一郎　教授	土地利用計画、市街地整備手法
	大西　　隆　教授	国土計画、地域計画、開発途上国都市論、テレワーク論
	大森　宣暁　准教授	都市交通計画、交通システム分析
	加藤　孝明　准教授[6]	地域安全システム学、防災まちづくり論、計画支援システム
	城所　哲夫　准教授	国際都市地域計画、開発途上国都市計画
	窪田　亜矢　准教授	都市デザイン、地域環境デザイン論
	小泉　秀樹　准教授	土地利用計画、住環境計画、まちづくり論
	小出　　治　教授	都市防災論
	貞広　幸雄　准教授	都市情報システム、都市空間解析、都市行動・計画立案支援
	西村　幸夫　教授[1]	都市デザイン論、都市保全計画、都市景観計画
	羽藤　英二　准教授	ネットワーク行動学、都市生活学、都市マーケティング論
	原田　　昇　教授	都市交通計画、都市交通論
	山田　常圭　特任教授	都市防災論、都市防災計画、消防防災支援システム

別表２：都市工学専攻における教育・研究に協力する教員とその研究領域（平成22年４月現在）

専攻分野	担当教員	研究領域
都市環境工学	佐藤　弘泰　准教授[7]	下水・廃水処理、環境分析化学、環境微生物工学
	味埜　　俊　教授[7]	環境微生物工学、環境水質科学
都市計画	安藤　尚一　教授[8]	都市計画制度論、サステナブル建築政策、国際防災
	松行美帆子　特任准教授	環境共生型都市計画論、アジア都市計画論

教員所属：無印 都市工学専攻
[1]先端科学技術研究センター　[2]水環境制御研究センター
[3]環境安全研究センター　[4]サステイナビリティ学連携研究機構
[5]空間情報科学研究センター　[6]生産技術研究所
[7]新領域創成科学研究科環境学研究系社会文化環境学専攻
[8](委)国土交通省

都　市　工　学　専　攻
受　験　申　告　票

本受験申告票は、募集要項の出願方法に従い、他の提出書類等とともに所定の出願期間内に提出すること。

下記の所定欄に記入し該当する項目に○をつけること。つけおとしがあるときは、出身学科等を考慮して本専攻で選択科目を指定することがある。

ふ　り　が　な		
修士課程受験者氏名		
専　攻　分　野 （１頁の第２項を参照）	都市環境工学	都市計画
入　学　時　期 （１頁の第３項を参照）	平成22年10月入学	平成23年４月入学

修士課程における研究計画について

研究テーマ、目的、方法を下欄に簡潔に記述しなさい。

キリトリ線

キリトリ線

平成23年度東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻博士後期課程　入学志望者案内

・この案内書は、平成23年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項を補うものである。

都市工学専攻　アドミッションポリシー

教育研究上の目的：

本専攻は、都市工学に関する体系的な知識とその応用技術を身につけ、都市計画、都市デザイン、都市交通計画、都市解析、環境デザイン、都市環境工学、都市水システム、国際都市環境、都市マネジメントなどに関する専門家として活躍できる人材を育成し、地域の気候風土・社会文化の多様性を踏まえ、グローバルな視点から国土及び地域社会の健全な発展に貢献することを教育研究上の目的とする。

求める学生像：

1）本専攻の教育研究上の目的に沿う人材育成に応える人
2）多様な文化を理解尊重し人類社会に対して国際的に貢献することを目指す人

1．定員及び出願資格

大学院博士後期課程の募集人員は11名である。入学志望者は、東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項（以下募集要項）第１項の出願資格を有する者であれば、その専攻専門及び資格取得年次を問わない。

2．志望分野及び指導教員

本専攻博士後期課程には、都市環境工学と都市計画の２つの専攻分野がある。入学後どちらの専攻分野にするかを受験申告票の所定欄に記入すること。

博士後期課程入学者は、指導教員の指導を受けて研究を行うので、本専攻修士課程入学志望者案内４頁別表等を参照して、受験申告票の所定欄に希望する指導教員名（複数でもよい）を記入すること。

3．入学時期

本専攻では、平成23年４月入学のほか、平成22年10月入学を認めている。平成22年９月末までに入学資格を満たしている（見込みを含む）志望者で、合格の際早期入学を希望する者は、受験申告票の「平成22年10月入学」に○印をつけること。

ただし、平成22年10月入学の受け入れ数には限度があり、希望しても平成23年４月入学に回されることがある。

4．選抜方法

（イ）第１次試験と第２次試験による。
（ロ）第１次試験は、第５項に述べる方法による。
（ハ）第２次試験は、修士論文、またはこれに代わるものによって行う。

５．第１次試験

第１次試験は、筆記試験、口述試験によって行う。なお、志望者が次のいずれに該当するかによって、本項（イ）に示すように、受験しなければならない筆記試験の科目が異なる。

① 本学大学院都市工学専攻修士課程修了者、または修了見込みの者（都市工学修士）
② 都市工学専攻以外の本学大学院修士課程修了者、または修了見込みの者（本学修士）
③ 本学以外の修士課程修了者など、出願資格を有し、かつ上記①②に該当しない志望者（一般志望者）
なお、従前「研究業績を有する」社会人志望者に対して行っていた社会人特別選抜試験は実施しない。

（イ）筆記試験

		試験科目		
		(A)外国語	(B)都市工学専門 (C)計画・設計・論文	研究業績・研究計画
		２時間30分	各３時間	２時間
試験内容等		修士課程入学志望者案内２頁の第５項(イ)を参照	修士課程入学志望者案内２頁の第５項(イ)を参照	修士論文の内容及び博士後期課程での研究計画を記述する
受験の要否	①都市工学修士	－	－	○
	②本学修士	－	○	○
	③一般志望者	○	○	○

注　○：受験しなければならない科目　　－：筆記試験を省略する科目
試験問題は日本語で出題され、日本語または英語で解答するものとする。

（ロ）口述試験：志望専攻分野について、博士後期課程における研究計画等に関する口述試験を行う。
（ハ）「10月入学」希望者は、修士論文またはこれに代わるものを、出願期間中に都市工学専攻事務室に提出すること（郵送可）。

６．試験期日

（イ）第１次試験の期日は募集要項のとおりとする。
（ロ）第２次試験の期日は平成23年２月であり、本学工学系研究科事務部より第１次試験合格者に通知する。また、平成22年10月入学を希望する者には、第２次試験の日時を追って通知する。

７．その他

入学志望者は、この入学志望者案内の12頁に掲載されている「入学試験受験者心得」を熟読すること。

８．連絡先等

連絡先：　東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室
〒113-8656　東京都文京区本郷７－３－１　　電話：03－5841－6216

都市工学専攻Webページ ☞ http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

都　市　工　学　専　攻
受　験　申　告　票

本受験申告票は、募集要項の出願方法に従い、他の提出書類等とともに所定の出願期間内に提出すること。
下記の所定欄に記入し該当する項目に○をつけること。つけおとしがあるときは、出身専攻等を考慮して本専攻で試験科目及び選択科目を指定することがある。

ふ　り　が　な		
博士後期課程受験者氏名		
専 攻 分 野 （注１）	都市環境工学	都市計画
入学希望時期（注２）	平成22年10月入学	平成23年４月入学
希望する指導教員名 （複数でもよい）		

注１　都市工学専攻博士後期課程入学志望者案内７頁の第２項を参照のこと。
注２　本案内７頁第３項を参照のこと。

キリトリ線

将来の研究について

キリトリ線

修士課程・博士後期課程　学生選抜試験日程

＊ 部分　平成22年7月31日訂正

課程	試験科目		日　　時	試験場所	持参用具	備　　考
修士課程	外国語	(A) 英　　語	８月30日（月） 9:00～11:30	①受験票発送時に外国語試験会場案内を同封する。 ②試験室は、８月28日(金) 午前10時に工学系研究科事務部掲示板に掲示する（受験者心得参照)。		TOEFL-ITPによる。なお、出願時にTOEFL-CBT または TOEFL-PBT、TOEFL-iBT公式スコアーを提出した場合は、そのスコアーを(A)英語の試験に替える。
	専門科目	(C) 計画・設計・論文	８月30日（月） 13:00～16:00	工学部14号館 演習室 (2F 226号室)	C-1・C-2の受験に際しては電卓を、C-3・C-4の受験に際しては電卓、色鉛筆及び定規を持参すること。	
		(B) 都市工学専門	８月31日（火） 9:00～12:00	工学部14号館 141講義室		
	外国人特別選考	専 門 科 目	８月31日（火） 9:00～12:00	工学部14号館 145大学院講義室		
		研究業績・研究計画	８月31日（火） 13:30～15:30	工学部14号館 145大学院講義室		
	口　述　試　験		９月３日（金） 10:00～	工学部14号館 8F 会議室		外国人特別選考受験者を含む。
博士後期課程	外国語	(A) 英　　語	８月30日（月） 9:00～11:30	①受験票発送時に外国語試験会場案内を同封する。 ②試験室は、８月28日(金) 午前10時に工学系研究科事務部掲示板に掲示する（受験者心得参照)。		TOEFL-ITPによる。なお、出願時にTOEFL-CBT または TOEFL-PBT、TOEFL-iBT公式スコアーを提出した場合は、そのスコアーを(A)英語の試験に替える。
	専門科目	(C) 計画・設計・論文	８月30日（月） 13:00～16:00	工学部14号館 演習室 (2F 226号室)	C-1・C-2の受験に際しては電卓を、C-3・C-4の受験に際しては電卓、色鉛筆及び定規を持参すること。	
		(B) 都市工学専門	８月31日（火） 9:00～12:00	工学部14号館 141講義室		
		研究業績・研究計画	~~８月31日~~ ９月１日＊（水） 13:00～15:00	工学部14号館 141講義室		
	外国人特別選考	専 門 科 目	８月31日（火） 9:00～12:00	工学部14号館 145大学院講義室		
		研究業績・研究計画	８月31日（火） 13:30～15:30	工学部14号館 145大学院講義室		
	口　述　試　験		９月２日（木） 10:00～	工学部14号館 8F 会議室		外国人特別選考受験者を含む。

注１　電卓は計算機能のみのものとする。

注２　外国人特別選考の受験資格に関してはあらかじめ都市工学専攻事務室に問い合わせること。

平成23(2011)年度 東京大学大学院工学系研究科入学試験受験者心得

～下記は予定です。正式版は受験票発送時に通知します。～

1．試験日

平成 22 年 8 月 30 日(月)～9 月 3 日(金)
(各科目等の試験時間・場所の詳細は、受験予定専攻入試案内書を参照のこと。)

2．試験場

東京大学大学院工学系研究科(東京都文京区本郷 7-3-1)試験場案内図参照

(1) 各自が受験すべき科目の試験室については、平成 22 年 8 月 27 日(金)午前 10 時に工学系研究科掲示板及び各専攻掲示板に掲示する。

(2) 受験者は、試験開始時刻の 15 分前までに所定の試験室に入室すること。なお、専門科目(専門学術)試験については、専攻において別に指示することもある。

3．携行品

(1) 受験票

(2) 黒色鉛筆(又はシャープペンシル)、消しゴム、鉛筆削り(卓上式は不可)、ハサミ(一般教育科目(一般学術)に必要)、時計(計時機能だけのもの)

(3) 携帯電話は、試験室入室前に電源を切って、カバン等に入れ、身につけないこと。これを時計として使用することは認めない。

(4) 専門科目(専門学術)試験の携行品については、専攻において別に指示することもある。

4．一般教育科目(一般学術)試験時の留意事項

(1) 試験開始後は、解答が終わった場合でも、また、受験を放棄する場合でも退室を許さない。

(2) 試験時間中、受験票を常に机上に置くこと。

(3) 一般教育科目(一般学術)試験においては、解答用紙ごとに受験番号を記入すること。氏名は書いてはならない。１問ごとに必ず１枚の解答用紙を使用すること。書ききれない場合は、裏面を使用してもよい。試験終了後、解答用紙上部の指定箇所を正しく切り取ること。

(4) 解答用紙及び問題冊子は、持ち帰ってはならない。

5．博士課程第２次試験（出願日程Ａ）及び博士課程出願日程Ｂ

博士課程第２次試験（出願日程Ａ）及び博士課程出願日程Ｂは、原則として平成 23 年２月上旬から中旬とし、期日・場所は追って通知する。

6．その他

(1) 合格者は、平成 22(2010)年 9 月 13 日(月)午後 4 時、工学系研究科掲示板に掲示する。また、平成 22(2010)年 9 月 16 日(木)までに本研究科 Web サイト（http://www.t.u-tokyo.ac.jp/tpage/）に掲示する。

(2) 合格者については、翌日付で、合格通知書を本人宛に郵送する。電話、FAX、メール等による合否の照会には応じない。

(3) 出願以後において、現住所、受信場所等に変更が生じた場合には、速やかに届け出ること。

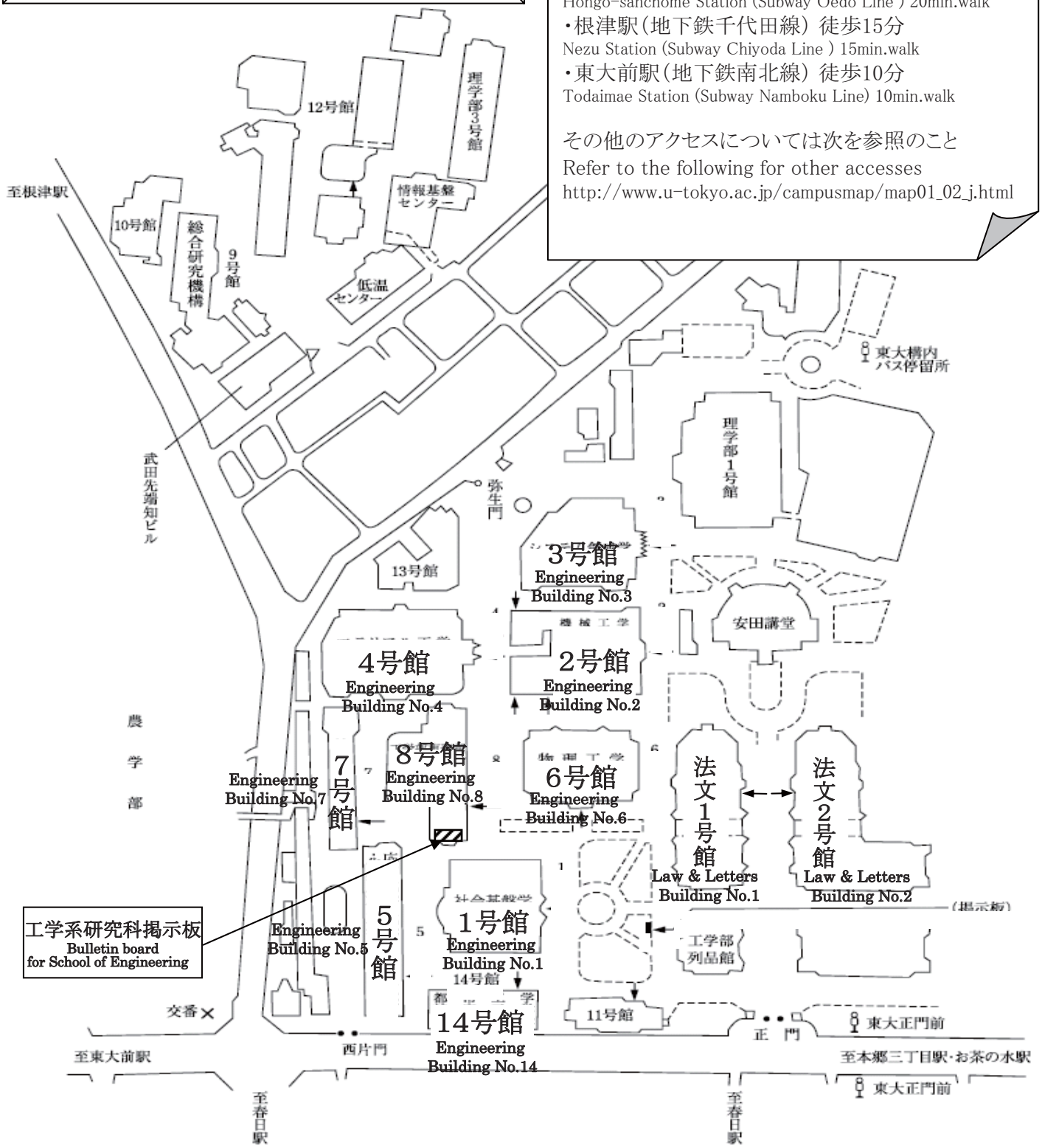
試験場案内（東京大学本郷キャンパス）
Map for the Examination
(Hongo campus, the University of Tokyo)

地下鉄利用　Subway

・本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）徒歩20分
Hongo-sanchome Station (Subway Marunouchi Line) 20min.walk

・本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）徒歩20分
Hongo-sanchome Station (Subway Oedo Line) 20min.walk

・根津駅（地下鉄千代田線）徒歩15分
Nezu Station (Subway Chiyoda Line) 15min.walk

・東大前駅（地下鉄南北線）徒歩10分
Todaimae Station (Subway Namboku Line) 10min.walk

その他のアクセスについては次を参照のこと
Refer to the following for other accesses
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html